

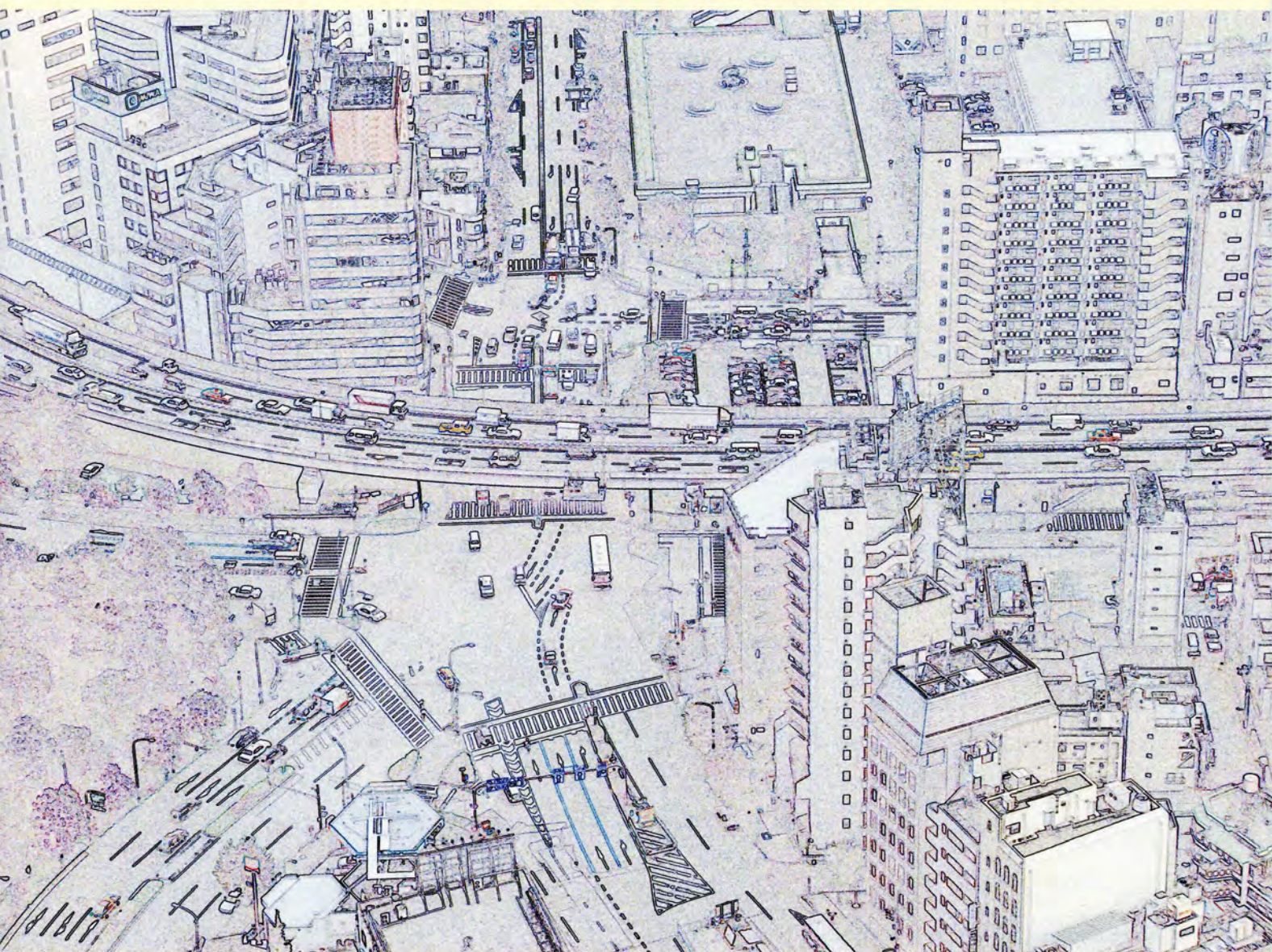
2019年度版

行政研究所

ガイドブック

入室試験から公務員試験合格・内定まで

国家総合職・一般職、地方上級等各種公務員採用試験対応



Gateway to Public Service

行研へのいざない ～「縁の下の力持ち」の矜持～

国家試験指導センター行政研究所

所長 西川伸一

(政治経済学部教授)

「縁の下の力持ち」という言葉があります。国語辞典を引くと「他人のために陰で苦勞、努力をすること、また、そのような人のたとえ」と出てきます(『デジタル大辞泉』)。「縁の下」と言われても、マンションなどそれがない家も多いためイメージがわからないかもしれません。「縁側の下。また、床下。」(『同』)のことです。アニメの「サザエさん」をみてください。猫のタマがよく縁の下に隠れています。

さて、公務員になるということ、言い換えれば公のために働くということは、社会の「縁の下の力持ち」になることだと思います。今年に入って厚生労働省の不正統計問題が大きく報じられました。公務員がマスメディアに取り上げられるのは、たいていこのような不祥事を起こしたときです。彼らにマイクが向けられるとすれば、それは釈明や謝罪のためであり、スポーツ選手のヒーローインタビューのような華やかな場面ではありません。ふつうにできて当たり前、できなければここぞとばかりに叩かれる。公務員とはそういう存在なのです。何かあれば「税金で食べてるくせに」とすぐに言われてしまいます。

定番の批判と常に隣り合わせになりながら、公務員は国民や住民のために地味な仕事を着実にこなしています。彼らがいなければ社会は回りません。アメリカでの最近の出来事を思い出してください。トランプ大統領が求めるメキシコ国境の壁建設予算をめぐる連邦議会で与野党が対立しました。その結果、連邦政府機関の一部が閉鎖されたことで、アメリカ国民は多大な迷惑を被りました。また、ある県庁職員になった私のゼミの卒業生がいます。彼はいま防災担当で月に何度かは宿直勤務があるそうです。災害の発生に備えるためです。公務員とはまさに社会の「縁の下の力持ち」なのです。

手柄を自慢するのではなく、「人知れず微笑まん」をプライドにする公務員という職業を私は尊敬しています。こうした公務員の仕事に魅力を感じる学生は、ぜひ私たち行政研究所(略称・行研ぎょうけん)の門を叩いてください。行研は公務員試験合格を目指す学生たちに、勉強する場所とプロ講師による充実した授業を提供しています。そこには、同じ志を持つ多くの仲間が集ります。とりわけ、みなさんに挑戦してほしいのは、最難関の国家公務員採用総合職試験です。国の行政の中核に多くの明治大学出身者が入ることで、この国はもっとよくなると私は確信してやみません。

「叩けよさらば開かれん」です。すぐに行動を起こして、行研であなたの近未来を具体的に設計してみませんか。

2019年4月1日